



スマートなITなら、ビッグ・データで経営が変わる。

**スマートなITインフラが、
ビッグ・データを最大限に活用し、世界水準の競争力を実現する。**

世界で20億人がWebにアクセスしている現在、25億個のRFIDや2014年には2億個になると予想されるスマート・メーターなど、あらゆるところからデータが発信され、私たちの周りにあふれかえっています。この膨大なデータから新たな知見や可能性を導き出すことが、今、求められています。

**マルタ共和国の人々は、なぜ午前3時に
パン焼き器のスイッチを入れるのでしょうか？**

答えは、最も電気代が安い時間帯だからです。地中海の中央に位置する、人口40万人、東京23区の半分の面積を持つマルタ共和国は、約80億円を投じてスマート・グリッドを展開しています。スマート・メーターからの大量データを活用することで、時間帯による電気料金の細かな設定が可能になり、市民一人一人が電力エネルギーを効率的に使用することができます。また、生活の質の向上、CO₂の削減、国全体の最適化も実現します。

2億ページもの情報の中からたった3秒で答えを導き出せますか？

自然言語処理技術をさらに進化させることを目的に設計された分析コンピューティング・システム、ワトソン。さまざまな分野の複雑な問題に対して、100万冊、2億ページの本に相当する自然言語で書かれた情報の断片を分析し、3秒以内に最も適した解答を導き出します。それを可能にしたのは、自然言語を扱う高度な技術と大量のタスクを処理できるよう最適化されたIBMのサーバーとソフトウェアです。

複雑化かつ多様化する顧客の志向や要望に的確に対応して、満足度を向上させること。これこそが急務の経営課題であり、企業成長の鍵だと言っても過言ではありません。多くの企業では、この課題の解決に向け、急増するデータへの対応に多額の投資をし、その結果ITが肥大化、複雑化してしまいました。しかし、膨大なデータを収集、活用するために巨大なITコストや時間がかかっていたのは今や過去の話となりました。ビッグ・データの最大限の活用を、最小限のコストで実現できる時代になったのです。

**IBMの“Smarter Computing”は、
データから知見を導き、企業経営の力に変えるITインフラです。**

IBMは、“Smarter Computing”というITインフラを提唱します。それは、最新のテクノロジーでビッグ・データを活用し、リアルタイムの経営判断と柔軟かつ迅速なビジネスの変革を実現し、企業競争力を高める、新しいITインフラの姿です。

世界中で、“Smarter Computing”を利用したビジネスが始まっています。ある資産運用会社のコール・センターでは、ITインフラの最適化により対応履歴データの分析を戦略的に実施して対策をとったことで、お客様からの苦情が90%減少しました。あるエンターテインメント会社では、ITインフラのエネルギー・コストを90%削減するのに成功しました。また、あるヘルスケア企業ではデータ保管のコストを50%削減し、そのコストを企業競争力強化に向けた戦略的投資に活用しています。“Smarter Computing”というITインフラでビッグ・データを活用していくことが、これからのビジネスには不可欠です。IBMは、スマートなITインフラでさらなる企業成長をご支援してまいります。

地球を、より賢く、よりスマートに。

Smarter Computingについて詳しくは で検索してください。

